

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

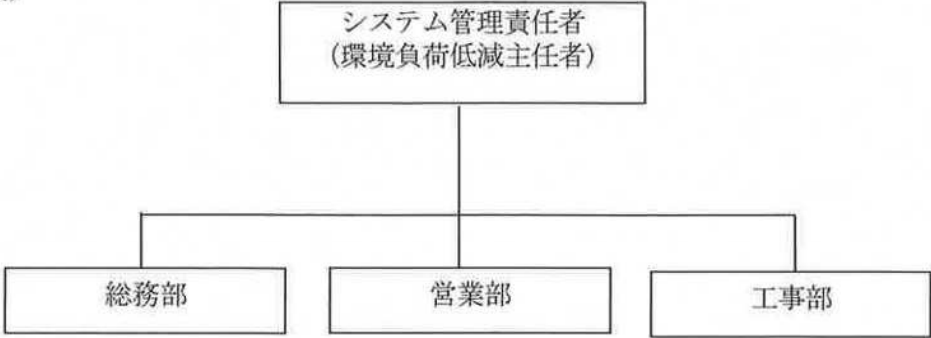
(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和 6年 6月 20日	
(あて先) さいたま市長 様	
提出者 住 所 さいたま市見沼区大字中川1008番地1 氏 名 齊藤建設工業株式会社 代表取締役 荒川和義 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 048-686-2111	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	齊藤建設工業株式会社
事業場の所在地	さいたま市見沼区大字中川1008番地1
計画期間	令和 6年 4月 1日から令和 7年 3月31日まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	総合工事業
②事業の規模	50,574万円
③従業員数	14人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	がれき類→破碎(委託)→再生砕石として再生利用(委託) 廃プラスチック→破碎(委託)→最終処分場で埋立処分(委託) 木くず→破碎(委託)→チップとして再生利用(委託) →焼却(委託)→最終処分場で埋立処分(委託) 建設汚泥→脱水(委託)→再生材として再利用(委託) 混合→破碎(委託)→最終処分場で埋立処分(委託) 紙くず→焼却(委託)→最終処分場で埋立処分(委託) その他がれき類→破碎(委託)→最終処分場で埋立処分(委託)

(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組) (廃棄物の排出の抑制に関する事項 別紙参照)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) (廃棄物の排出の抑制に関する事項 別紙参照)		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) がれき類、木くず、廃プラスチック、建設汚泥、金属くず、アスファルト切断水については分別している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 引き続き、がれき類、木くず、廃プラスチック類、建設汚泥、金属くず、アスファルト切断水については、分別を徹底する。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（　—　年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) —		
②計画	【目標】 —		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) —		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（　—　年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) —		
②計画	【目標】 —		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) —		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) —		
②計画	【目標】 —		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) —		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組) (廃棄物の処理の委託に関する事項の別紙参照)		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) (廃棄物の処理の委託に関する事項の別紙参照)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(令和5年度)実績】								
	産業廃棄物の種類	がれき類	廃プラスチック類	木くず	建設汚泥				
	排出量	1845.10t	11.07t	4.68t	135.19t				
	(これまでに実施した取組) 工法を選定し、発生量の低減に努める。(有物使用・再生材使用等) 梱包材や養生材を必要最小限としている。								
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	がれき類	廃プラスチック類	木くず	建設汚泥				
	排出量	1660.00t	10.00t	4.00t	120.00t				
	(今後実施する予定の取組) 発生量抑制のため、社内研修を行う。								

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

【前年度(令和5年度)実績】

産業廃棄物の種類	がれき類	廃プラスチック類	木くず	建設汚泥				
全処理委託量	1845.10t	11.07t	4.68t	135.19t				
優良認定処理業者への 処理委託量	—	11.07t	4.68t	132.00t				
再生利用業者への 処理委託量	1845.10t	—	—	3.19t				
認定熱回収業者への 処理委託量	—	—	—	—				
認定熱回収業者以外への 熱回収を行う業者への 処理委託量	—	—	—	—				

(これまでに実施した取組)

委託基準に基づき、委託可能な処理業者を選定している。

②計画

【目標】

産業廃棄物の種類	がれき類	廃プラスチック類	木くず	建設汚泥				
全処理委託量	1660.00t	10.00t	4.00t	120.00t				
優良認定処理業者への 処理委託量	—	10.00t	4.00t	115.00t				
再生利用業者への 処理委託量	1600.00t	—	—	5.00t				
認定熱回収業者への 処理委託量	—	—	—	—				
認定熱回収業者以外への 熱回収を行う業者への 処理委託量	—	—	—	—				

(今後実施する予定の取組)

委託した処分場等の確認を行う。